

第118回

トラック運送業界の景況感（速報）

令和4年4月～6月期

日銀短観（6月調査）では、原材料コスト高や中国のロックダウンによる供給制約を受けるなど、厳しい経済環境を反映し、大企業・製造業で+9（前回+14）と悪化した。

一方、トラック運送業においては、燃料価格は高止まりし、依然として燃料価格の高騰分を適正に転嫁できていない事業者が多く、運送原価が増大し続けていることから、令和4年4月～6月期の景況感は▲52.1と前回より8.1ポイント悪化し、一段と深いマイナス圏に沈んだ。

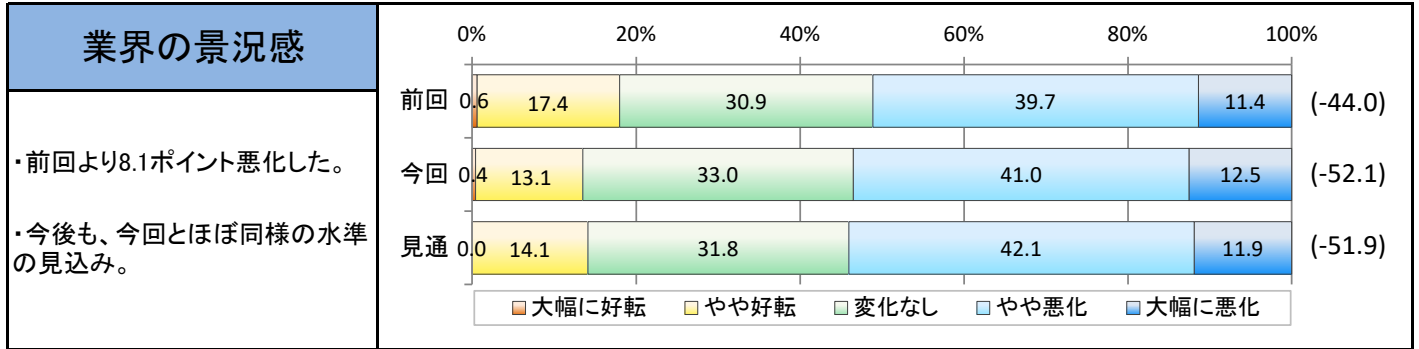
なお、今後の見通しは、燃料価格の高止まりによる利益圧迫を織り込み、▲51.9（今回▲52.1）と横ばいの見込みである。

令和4年8月10日

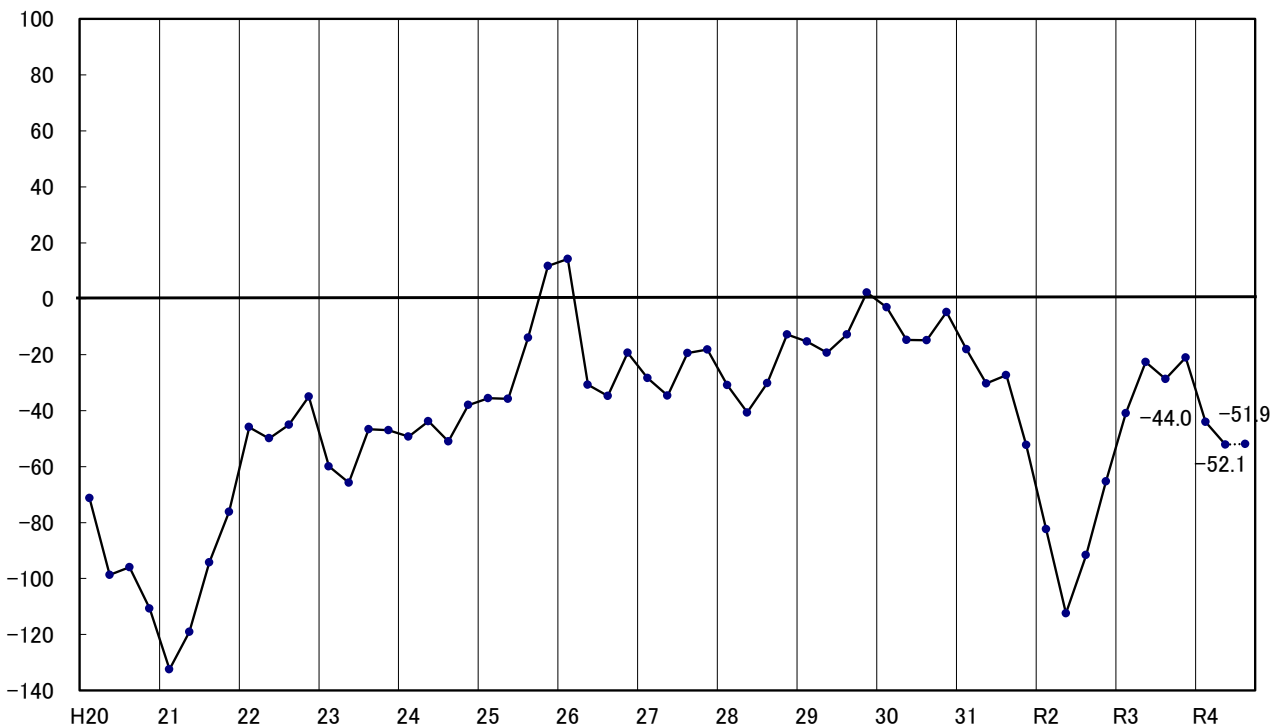
公益社団法人 全日本トラック協会

1 業界の景況感:今回(令和4年4月～6月期)の概況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> 業界の景況感は燃料価格の高騰、円安による物価高の影響を受け、「好転」とした事業者は13.5%(前回18.0%)、「悪化」とした事業者は53.5%(前回51.1%)で、判断指標は▲52.1と前回より8.1ポイント悪化した。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 今後の見通しは、原油価格の高止まりを織り込むなど、▲51.9(今回▲52.1)と、0.2ポイント改善する見込みである。



トラック運送業界の景況感の推移(H20以降)



(注1) 各グラフ(3段の横棒グラフ)の上段は前回(R4.1月～3月期)の状況、中段は今回(R4.4月～6月期)の状況、下段は今後(R4.7月～9月期)の見通しを示す。いずれも前年同期比の回答である。

(注2) 各グラフ(3段の横棒グラフ)の構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

(注3) 各グラフ(3段の横棒グラフ)右側にあるカッコ内は判断指数。各判断指数は、各設問の回答に対し、「大幅に増加・上昇・好転、労働力不足」は+2、「やや増加・上昇・好転、労働力不足」は+1、「横ばい」は0、「やや減少・低下・悪化、労働力過剰」は-1、「大幅に減少・低下・悪化、労働力過剰」は-2の点数に置き換え、平均を100倍することにより各判断指数を算出している。

A (設問Aの回答者数) = $a_1+a_2+a_3+a_4+a_5$ (設問Aの選択肢1～5の回答数の和)

指標 = $\{(+2 \times a_1) + (+1 \times a_2) + (0 \times a_3) + (-1 \times a_4) + (-2 \times a_5)\} \div A \times 100$

2 共通の概況①:今回(令和4年4月～6月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・実働率は▲31.2(前回▲12.9)と18.3ポイント悪化、実車率は▲26.8(前回▲16.5)と10.3ポイント悪化し、輸送効率は悪化傾向となった。 ・運転者の採用動向は▲12.5(前回▲8.2)と4.3ポイント低下し、運転者の雇用動向(労働力の不足感)は76.1(前回67.2)と8.9ポイント上昇し、運転者労働力の不足感が強くなった。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・実働率は▲19.7(今回▲31.2)と11.5ポイント改善、実車率は▲22.7(今回▲26.8)と4.1ポイント改善と、輸送効率は改善傾向となる見込みである。 ・運転者の採用動向は▲10.7(今回▲12.5)と1.8ポイント上昇、運転者の雇用動向(労働力の不足感)は84.7(今回76.1)と8.6ポイント上昇し、運転者労働力の不足感が一段と強くなる見込みである。

実働率	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.4 21.3 49.3 23.0 6.0 (-12.9)</p> <p>今回 18.9 38.4 35.4 7.4 (-31.2)</p> <p>見通 0.4 21.7 41.7 30.2 6.0 (-19.7)</p> <p>■大幅に上昇 ■やや上昇 ■横ばい ■やや低下 ■大幅に低下</p>
<p>・前回より18.3ポイント悪化した。</p> <p>・今後は11.5ポイント改善する見込み。</p>	
実車率	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.6 16.7 54.1 23.0 5.6 (-16.5)</p> <p>今回 18.1 44.5 29.8 7.6 (-26.8)</p> <p>見通 17.7 47.3 29.6 5.4 (-22.7)</p> <p>■大幅に上昇 ■やや上昇 ■横ばい ■やや低下 ■大幅に低下</p>
<p>・前回より10.3ポイント悪化した。</p> <p>・今後は4.1ポイント改善する見込み。</p>	
運転者の採用動向	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.9 15.5 61.4 18.5 3.6 (-8.2)</p> <p>今回 12.7 64.6 20.1 2.6 (-12.5)</p> <p>見通 15.1 63.2 17.5 4.2 (-10.7)</p> <p>■大幅に増加 ■やや増加 ■変わらない ■やや減少 ■大幅に減少</p>
<p>・前回より4.3ポイント低下した。</p> <p>・今後は1.8ポイント上昇する見込み。</p>	
運転者の雇用動向 (労働力の不足感)	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 16.9 39.5 38.0 5.2 0.4 (67.2)</p> <p>今回 17.7 45.9 32.0 3.6 0.8 (76.1)</p> <p>見通 18.7 51.9 26.0 2.2 1.2 (84.7)</p> <p>■不足 ■やや不足 ■適当 ■やや過剰 ■過剰</p>
<p>・前回より8.9ポイント上昇した(不足感が強くなった)。</p> <p>・今後は8.6ポイント上昇する見込み。</p>	

(注4)雇用状況については、上段は前回(R4.1月～3月期)の状況、中段は今回(R4.4月～6月期)の状況、下段は今後(R4.7月～9月期)の見通しを示しているが、前回及び今回は前年同期比ではなく「その期の状況」を、見通しは「前年同期比の見通し」を集計している。

3 共通の概況②: 今回(令和4年4月～6月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> 所定外労働時間は▲28.0(前回▲23.0)と5.0ポイント減少、貨物の再委託(下請運送会社への委託割合)は▲13.3(前回▲3.7)と9.6ポイント減少した。 経常損益は燃料価格の高止まりによるコスト負担が影響し、▲58.3(前回▲57.3)と1.0ポイント悪化した。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 所定外労働時間は▲23.3(今回▲28.0)と4.7ポイント増加、貨物の再委託は▲9.9(今回▲13.3)と3.4ポイント増加する見込みである。 経常損益は燃料価格の高止まりを織り込み、▲51.3(今回▲58.3)と7.0ポイント改善する見込みである。

所定外労働時間	
貨物の再委託 (下請運送会社への委託割合)	
経常損益	

【調査の概要】

平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。第118回調査は、令和4年7月1日に、モニターに対して調査開始、令和4年7月31日回収分までを集計。

特積	一般	回答事業者全体
108	483	503

4 一般貨物:今回(令和4年4月～6月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> 一般貨物では、輸送数量は▲1.9(前回1.8)と3.7ポイント悪化、運賃・料金の水準は▲5.0(前回▲0.4)と4.6ポイント悪化したことから、営業収入(売上高)は▲3.1(前回3.1)と6.2ポイント悪化した。 営業利益は▲24.6(前回▲58.0)と33.4ポイント改善したものの、依然マイナス圏に深く落ち込んでいる。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 一般貨物では、輸送数量は▲5.4(今回▲1.9)と3.5ポイント悪化、運賃・料金の水準は▲6.6(今回▲5.0)と1.6ポイント悪化し、営業収入(売上高)は▲7.2(今回▲3.1)と4.1ポイント悪化する見込みである。 営業利益は、燃料価格の高止まりなど不透明な経営環境を反映し、▲31.5(今回▲24.6)と6.9ポイント悪化する見込みである。

輸送数量	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.4 28.0 48.6 18.8 4.1 (1.8)</p> <p>今回 0.8 30.8 36.4 29.4 2.5 (-1.9)</p> <p>見通 30.4 38.9 25.5 5.2 (-5.4)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
運賃・料金の水準	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 13.7 73.7 11.0 1.6 (-0.4)</p> <p>今回 0.8 20.5 57.8 14.7 6.2 (-5.0)</p> <p>見通 0.8 16.6 62.9 14.5 5.2 (-6.6)</p> <p>■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや下落 ■ 大幅に下落</p>
営業収入(売上高)	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.8 31.2 44.5 17.5 6.1 (3.1)</p> <p>今回 23.2 53.0 21.3 2.5 (-3.1)</p> <p>見通 25.3 44.7 27.5 2.5 (-7.2)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
営業利益	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.8 14.1 33.5 29.4 22.2 (-58.0)</p> <p>今回 0.4 26.7 31.7 30.2 11.0 (-24.6)</p> <p>見通 26.7 31.3 25.9 16.1 (-31.5)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>

5 宅配貨物:今回(令和4年4月～6月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> 宅配貨物では、輸送数量は8.3(前回22.2)と13.9ポイント悪化、運賃・料金の水準は▲15.3(前回19.4)と34.7ポイント悪化したことから、営業収入(売上高)は▲25.0(前回16.7)と41.7ポイント悪化した。 営業利益は▲8.3(前回▲13.9)と5.6ポイント改善した。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 宅配貨物では、輸送数量は19.4(今回8.3)と11.1ポイント改善、運賃・料金の水準は▲8.3(今回▲15.3)と7.0ポイント改善することから、営業収入(売上高)は11.1(今回▲25.0)と36.1ポイント改善する見込みである。 営業利益は8.3(今回▲8.3)と16.6ポイント改善する見込みである。

輸送数量	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 5.6 38.9 33.3 16.7 5.6 (22.2)</p> <p>今回 16.7 16.7 25.0 41.7 (8.3)</p> <p>見通 19.4 13.9 33.3 33.3 (19.4)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
運賃・料金の水準	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 5.6 25.0 55.6 11.1 2.8 (19.4)</p> <p>今回 16.7 52.8 29.2 1.4 (-15.3)</p> <p>見通 16.7 61.1 19.4 2.8 (-8.3)</p> <p>■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや下落 ■ 大幅に下落</p>
営業収入(売上高)	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 5.6 36.1 33.3 19.4 5.6 (16.7)</p> <p>今回 8.3 58.3 33.3 (-25.0)</p> <p>見通 25.0 61.1 13.9 (11.1)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
営業利益	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 33.3 30.6 25.0 11.1 (-13.9)</p> <p>今回 33.3 25.0 41.7 (-8.3)</p> <p>見通 41.7 25.0 33.3 (8.3)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>

※ 宅配貨物に関する回答事業者は一部に限定され、また回答サンプル数が少ないため、上記調査結果は宅配貨物を網羅的に評価した結果となっていない場合がある。

6 宅配以外の特積貨物:今回(令和4年4月～6月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> 宅配以外の特積貨物では、輸送数量は6.0(前回12.1)と6.1ポイント悪化、運賃・料金の水準は1.2(前回1.5)と0.3ポイント悪化したことから、営業収入(売上高)は4.8(前回7.6)と2.8ポイント悪化した。 営業利益は11.9(前回▲39.4)と51.3ポイント改善し、プラス圏を回復した。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 宅配以外の特積貨物では、輸送数量は7.1(今回6.0)と1.1ポイント改善、運賃・料金の水準は6.0(今回1.2)と4.8ポイント改善することから、営業収入(売上高)は7.1(今回4.8)と2.3ポイント改善する見込みである。 営業利益は14.3(今回11.9)と2.4ポイント改善する見込みである。

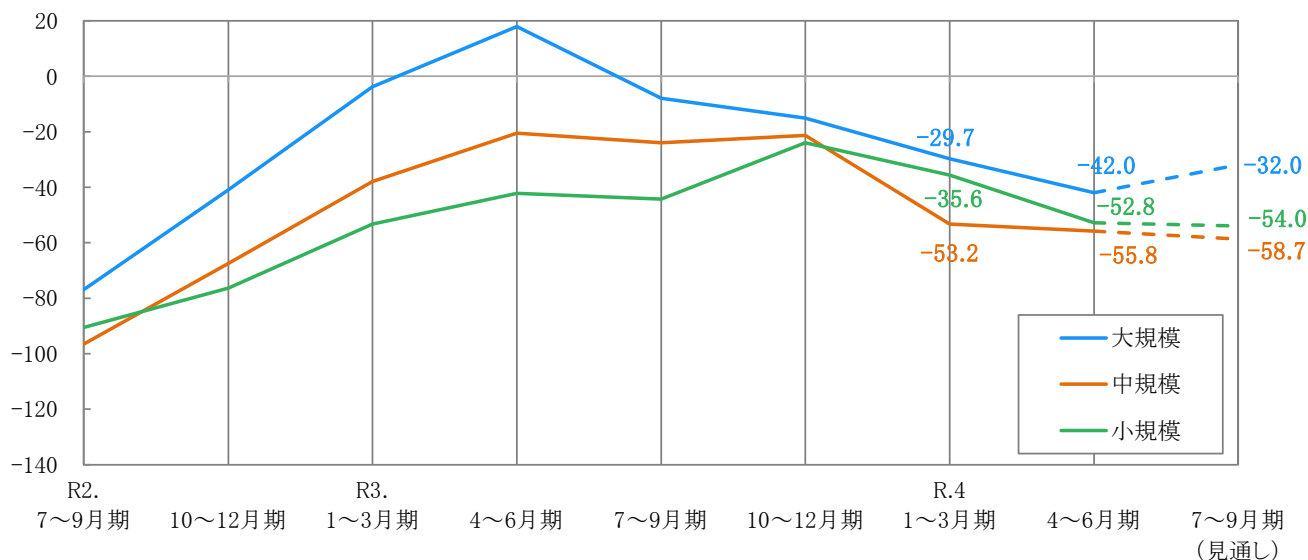
輸送数量	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 39.4 42.4 9.1 9.1 (12.1)</p> <p>今回 26.2 54.8 17.9 1.2 (6.0)</p> <p>見通 33.3 40.5 26.2 (7.1)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
運賃・料金の水準	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 16.7 72.7 6.1 4.5 (1.5)</p> <p>今回 9.5 83.3 6.0 1.2 (1.2)</p> <p>見通 11.9 83.3 3.6 1.2 (6.0)</p> <p>■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや下落 ■ 大幅に下落</p>
営業収入(売上高)	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 34.8 45.5 12.1 7.6 (7.6)</p> <p>今回 19.0 66.7 14.3 (4.8)</p> <p>見通 19.0 69.0 11.9 (7.1)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
営業利益	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 19.7 37.9 25.8 16.7 (-39.4)</p> <p>今回 42.9 28.6 26.2 2.4 (11.9)</p> <p>見通 40.5 38.1 16.7 4.8 (14.3)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>

7 事業者特性別の特徴①:規模別・品目別 業界の景況感

規模 (注5)

- ・大規模事業者：▲42.0(前回▲29.7)と12.3ポイント悪化、今後は▲32.0と10.0ポイント改善見通し。
- ・中規模事業者：▲55.8(前回▲53.2)と2.6ポイント悪化、今後は▲58.7と2.9ポイント悪化見通し。
- ・小規模事業者：▲52.8(前回▲35.6)と17.2ポイント悪化、今後は▲54.0と1.2ポイント悪化見通し。

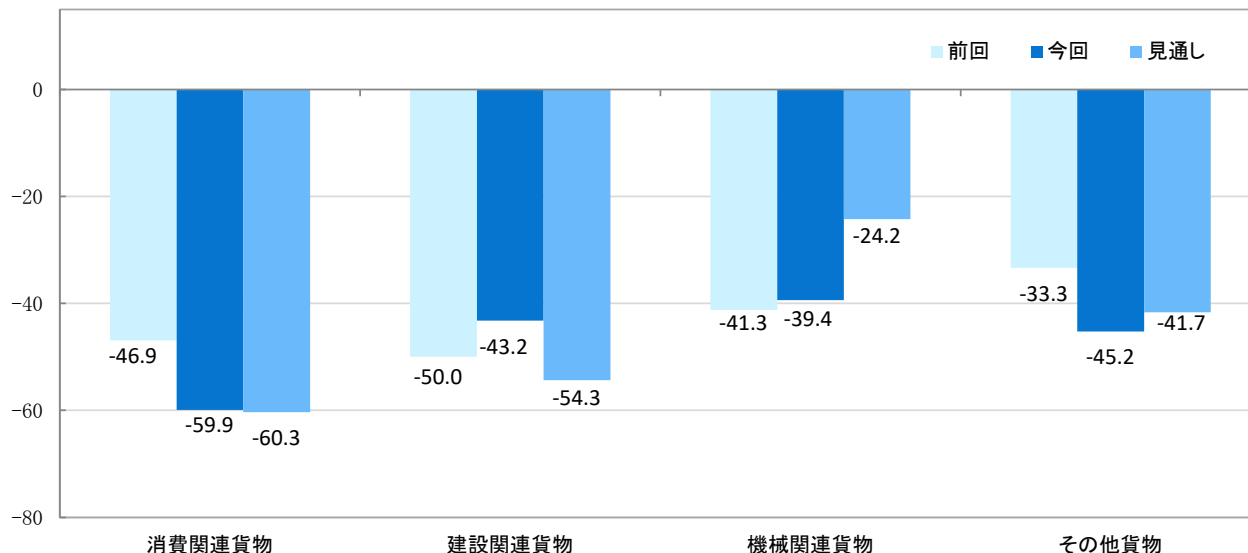
事業規模別 業界の景況感に関する指標の推移 (R2. 7~9月期より)



品目 (注6)

- ・消費関連貨物：▲59.9(前回▲46.9)と13.0ポイント悪化、今後は▲60.3と0.4ポイント悪化見通し。
- ・建設関連貨物：▲43.2(前回▲50.0)と6.8ポイント改善、今後は▲54.3と11.1ポイント悪化見通し。
- ・機械関連貨物：▲39.4(前回▲41.3)と1.9ポイント改善、今後は▲24.2と15.2ポイント改善見通し。
- ・その他貨物：▲45.2(前回▲33.3)と11.9ポイント悪化、今後は▲41.7と3.5ポイント改善見通し。

品目別 業界の景況感に関する指標(一般貨物)



(注5) 規模別分類

大規模事業者：101両以上 中規模事業者：21両以上100両以下 小規模事業者：20両以下

(注6) 品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

その他貨物：石炭、原油、石油、化学、紙・パルプなど

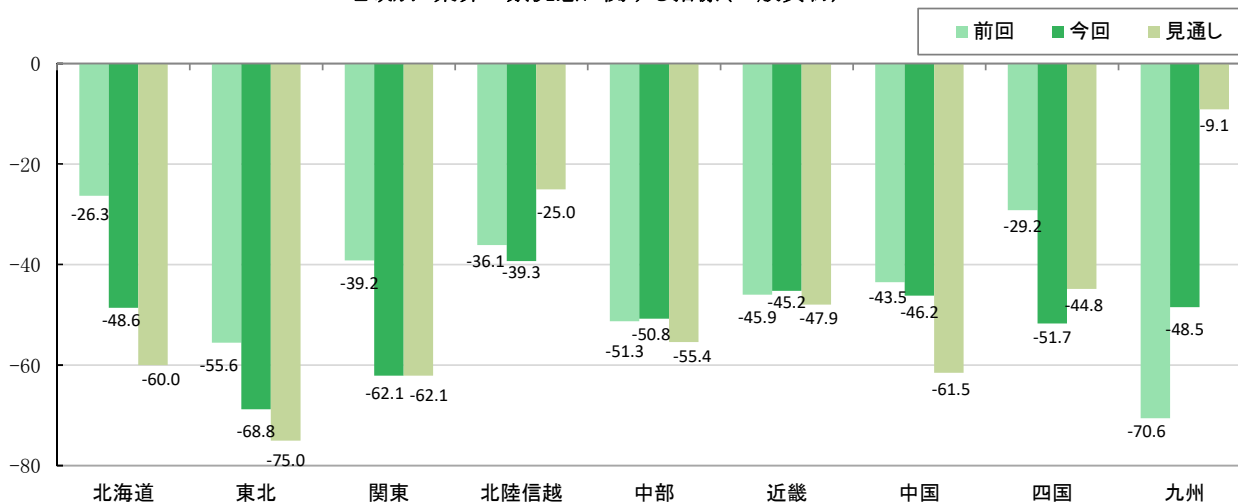
品目別業界の景況感に関する指標は、「一般貨物」の輸送品目について1位の回答を反映している。

7 事業者特性別の特徴②:地域別・事業形態別 業界の景況感等

地域 (注7)

- 地域別にみると、中部、近畿がわずかに改善し、九州は大幅に改善した。
- 来期の見通しは、北陸信越、四国、九州が改善する見通しである。

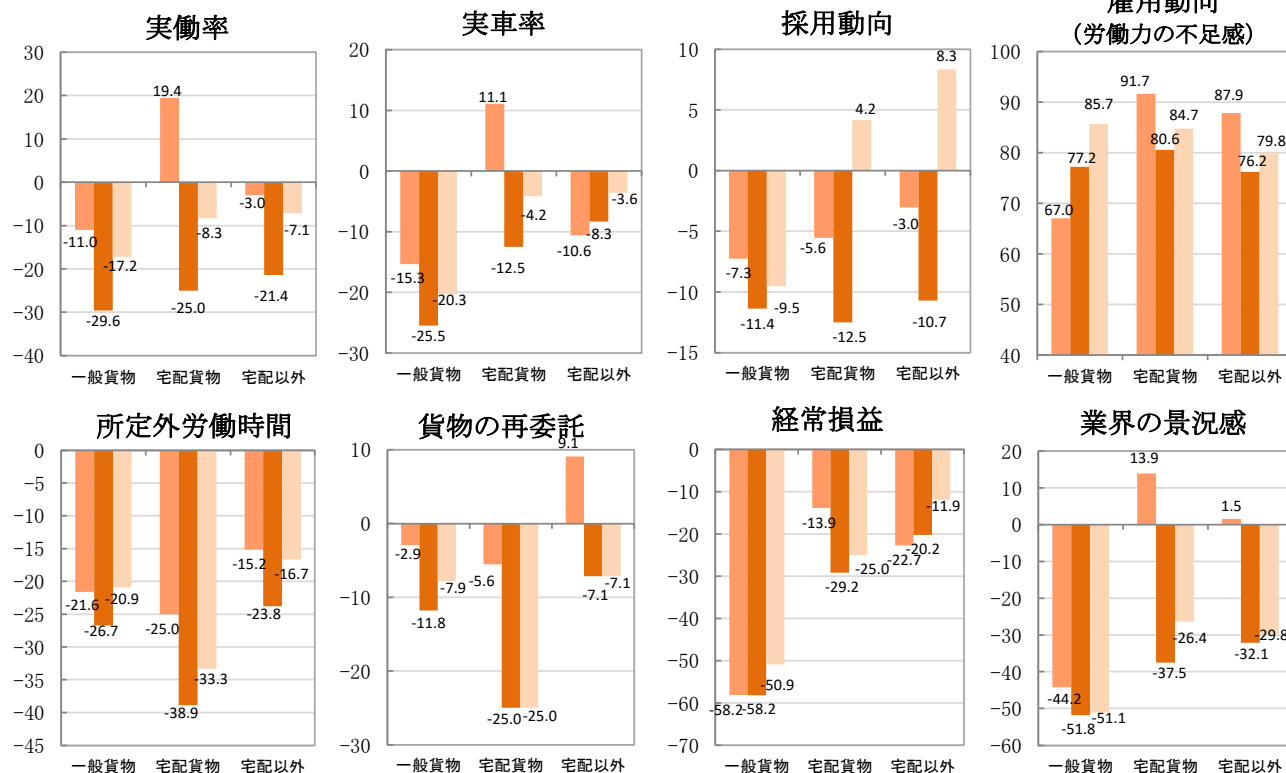
地域別 業界の景況感に関する指標(一般貨物)



事業形態別 (注8)

- 運転者の採用動向は、不透明な経済環境を反映し、全てにおいて低下し、労働力の不足感は一段と強くなった。
- 業界の景況感は、宅配以外の特積貨物▲32.1、宅配貨物▲37.5、一般貨物▲51.8となっている。

前回 今回 見通し

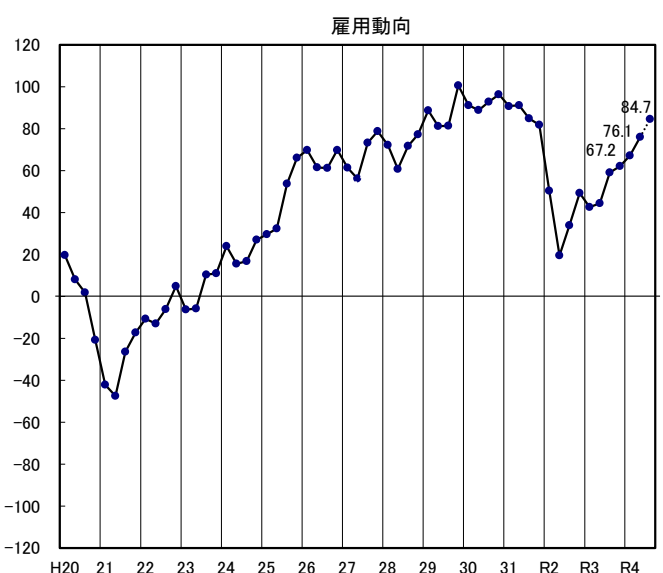
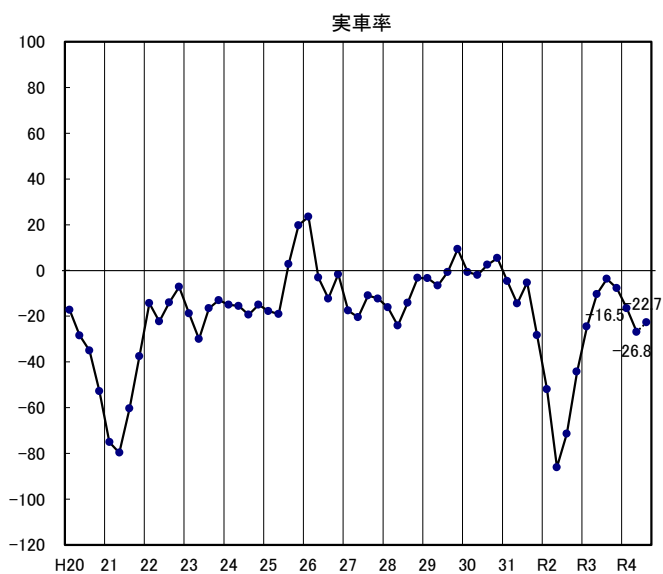
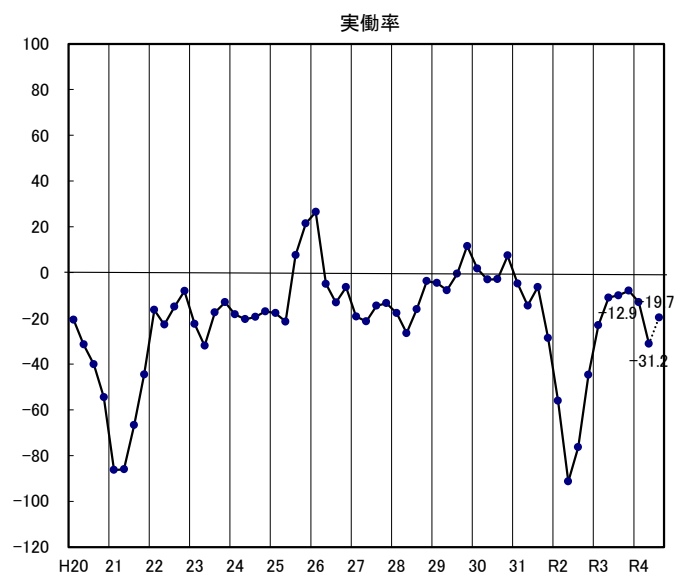


(注7) 地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。なお、グラフは一般貨物の事業者のみ集計している。

(注8) 事業形態の分類は、「一般貨物」及び「宅配貨物」「宅配以外の特積貨物」である。

8 業況判断指標の推移(平成20年～令和4年度第2四半期見通し)

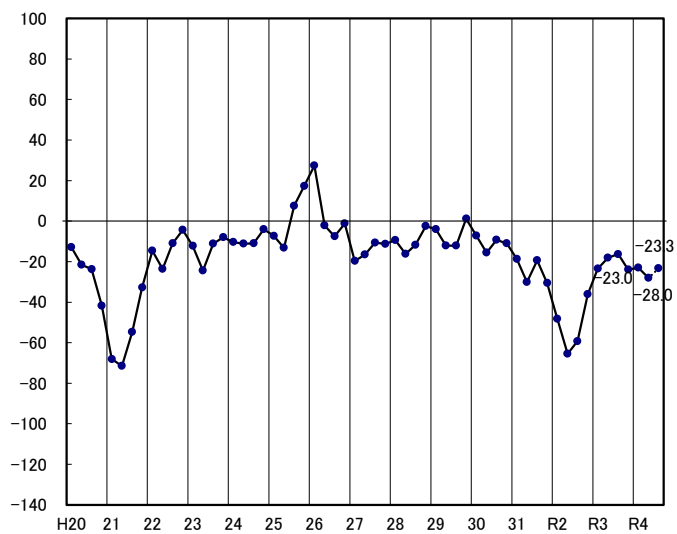
共通の概況①



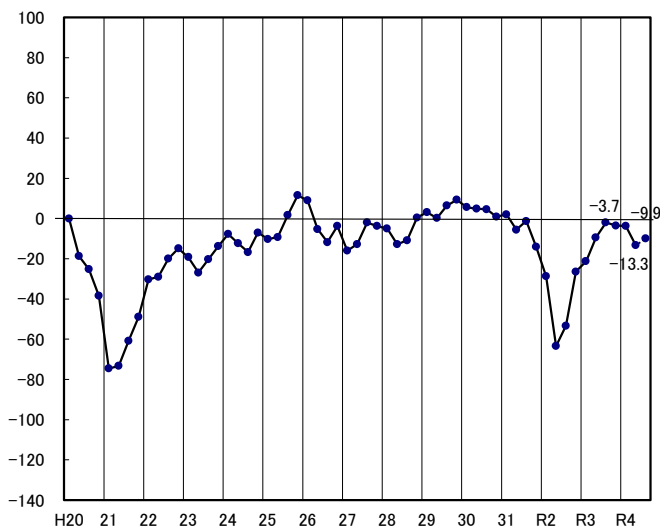
8 業況判断指標の推移(平成20年～令和4年度第2四半期見通し)

共通の概況②

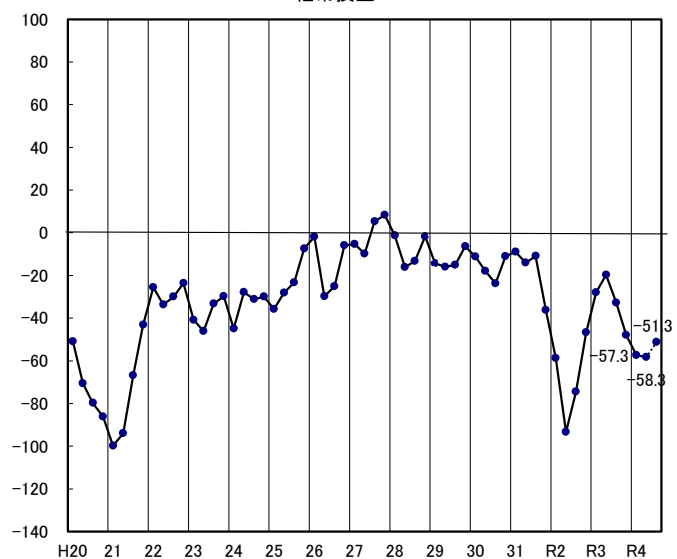
所定外労働時間



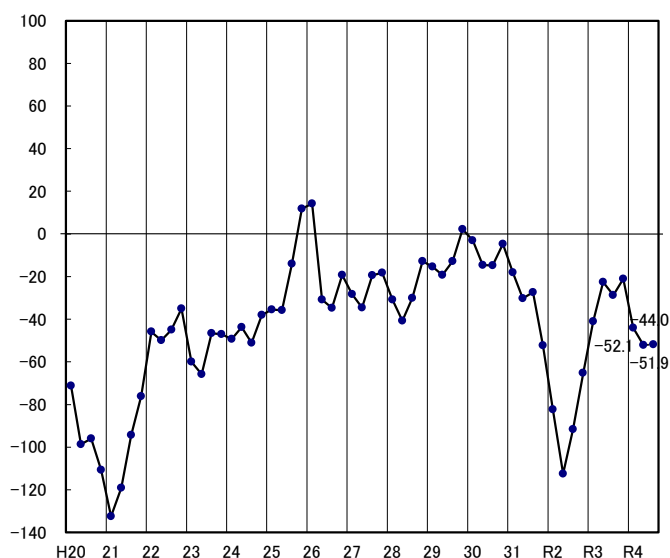
貨物の再委託



経常損益



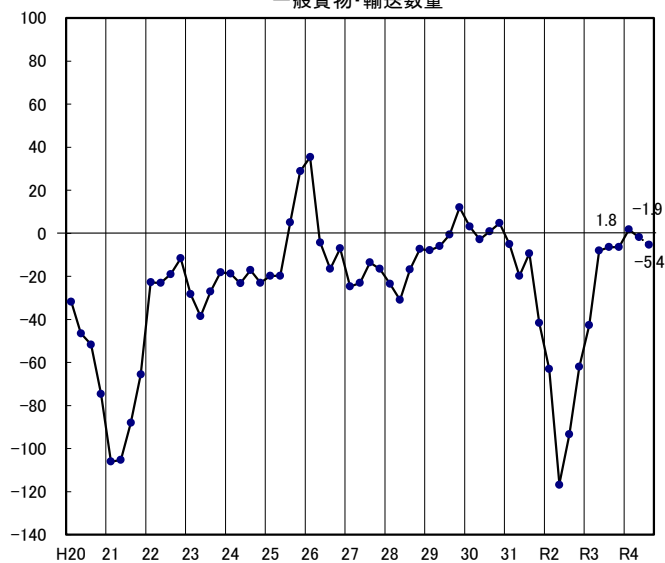
業界の景況感



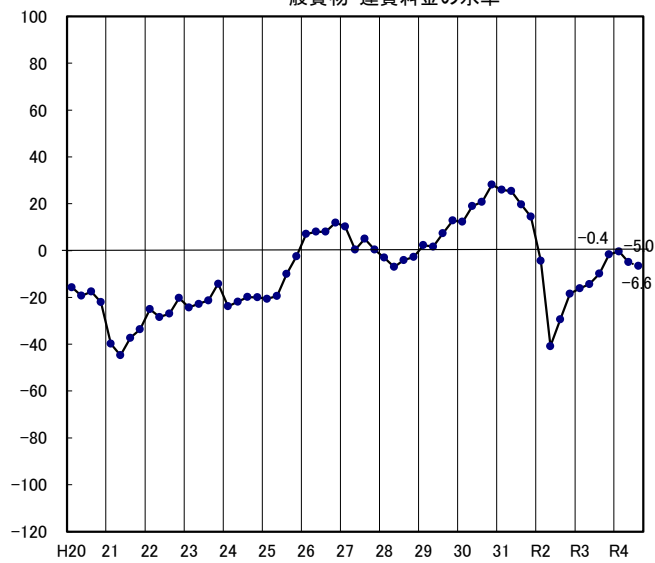
8 業況判断指標の推移(平成20年～令和4年度第2四半期見通し)

一般貨物

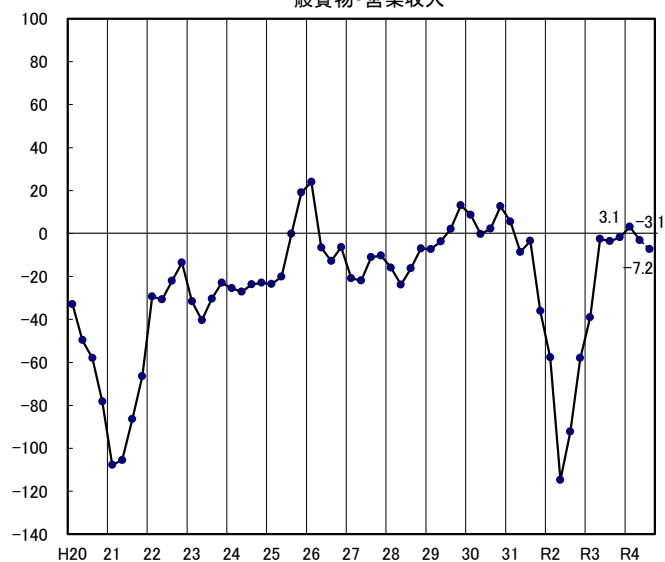
一般貨物・輸送数量



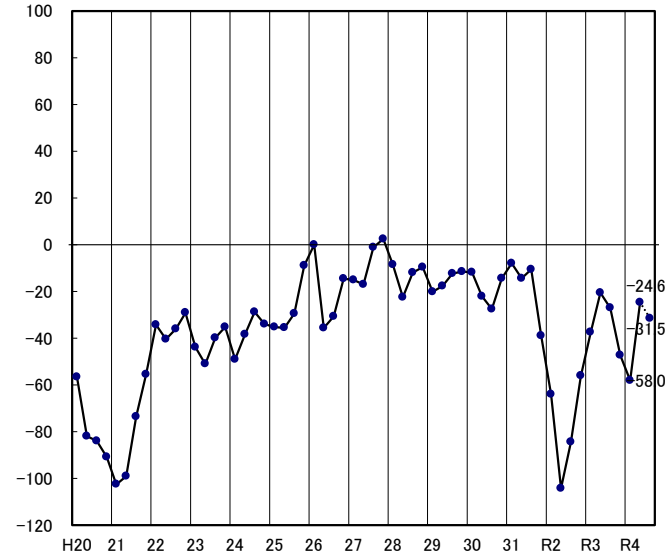
一般貨物・運賃料金の水準



一般貨物・営業収入

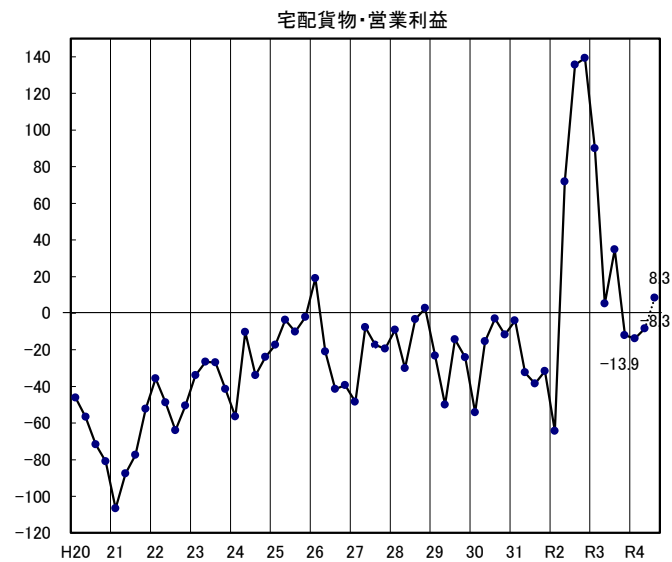
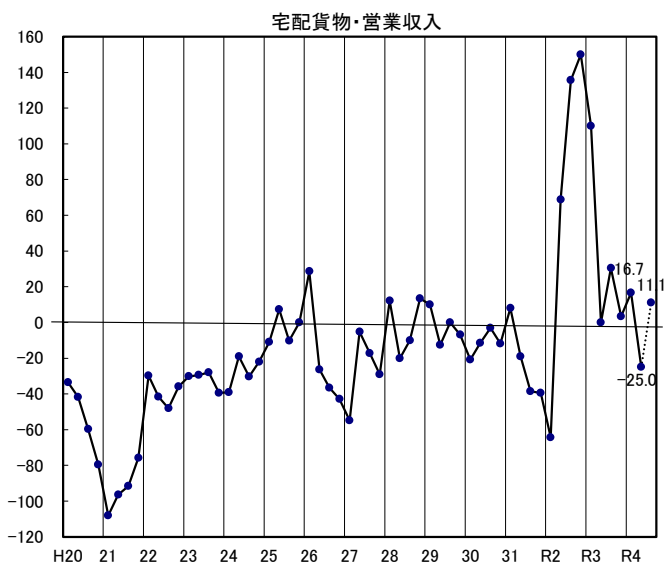
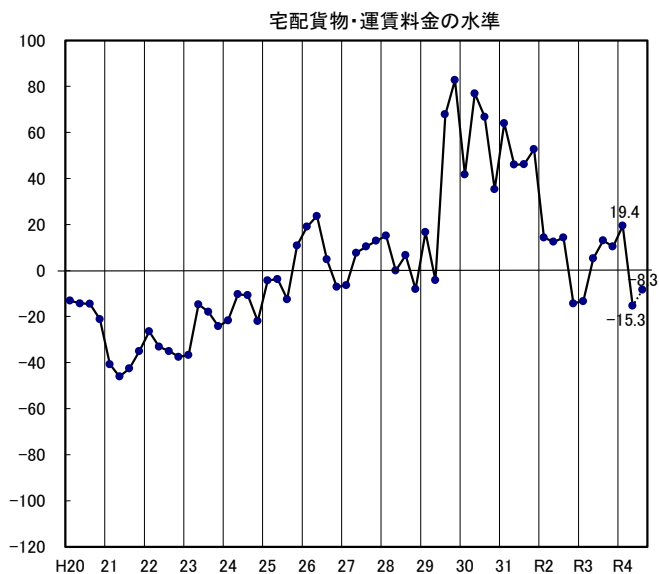
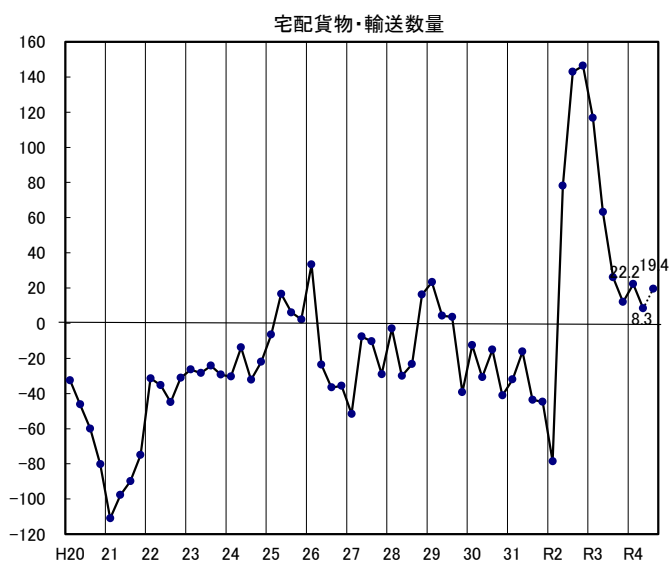


一般貨物・営業利益



8 業況判断指標の推移(平成20年～令和4年度第2四半期見通し)

宅配貨物



8 業況判断指標の推移(平成20年～令和4年度第2四半期見通し)

宅配以外の特積貨物

